⑵　下水道業

下水道業については、主要な工程である前処理・揚水工程、水処理工程、汚泥処理工程、汚泥焼却工程、総合管理、その他の主要エネルギー消費設備及び未利用エネルギーに関し、判断基準中目標及び措置部分の実現に資する設備等の具体例としては、別表２に掲げる設備等が有効であることから、中長期的な計画の作成における検討事項として掲げるものである。

⑶　廃棄物処理業

廃棄物処理業については、主要な工程である受入供給工程、熱処理工程、後処理工程、発電工程、総合管理及びその他の主要エネルギー消費設備に関し、判断基準中目標及び措置部分の実現に資する設備等の具体例としては、別表３に掲げる設備等が有効であることから、中長期的な計画の作成における検討事項として掲げるものである。

ただし、廃棄物処理業のうち、し尿処分業におけるし尿処理施設については、主要な工程である水処理工程、汚泥処理工程、総合管理、その他の主要エネルギー消費設備及び未利用エネルギーに関し、判断基準中目標及び措置部分の実現に資する設備等の具体例としては、別表４に掲げる設備等が有効であることから、中長期的な計画の作成における検討事項として掲げるものである。

別表１　上水道業

工　程	設　備　区　分	具　体　的　内　容
取水・導水工程	ポンプ設備	１．運転制御方式の改善（台数制御、インバーター等による回転速度制御、可動羽根制御等） ２．ポンプ容量の適正化（羽根車改造等） ３．高効率モータ、高効率ポンプ形式の採用 ４．運転の効率化（ポンプ吸込圧力の有効利用、流量の平準化による管路抵抗の軽減）
	除塵機	１．運転時間、運転間隔の調整による運転の効率化 ２．上下流の水位差によるＯＮ―ＯＦＦ制御
沈でん・ろ過工程	凝集池設備	１．急速攪拌・緩速攪拌装置の効率化（駆動方式の見直し（低速モータの採用、インバーター制御等）、駆動軸の改良、翼車の材質・構造等の改良） ２．迂流式凝集池の導入
	沈でん設備	１．スラッジ掻寄機の運転の効率化（効率的な駆動方式の採用、原水水質に応じた運転時間・運転間隔の調整） ２．排泥設備の運転の効率化（界面計・濃度計、排泥制御装置の採用による運転時間・運転間隔の調整、圧力水噴射による排泥促進）
	ろ過池設備	１．洗浄の効率化（洗浄の頻度、時間等の見直し、ろ抗到達洗浄等） ２．洗浄速度・圧力の適正化 ３．自然平衡形ろ過池（自己逆流洗浄型）の導入
	膜ろ過設備	１．ポンプ運転制御方式の改善（台数制御、インバーター等による回転速度制御、可動羽根制御等） ２．膜洗浄の効率化（頻度、時間等の見直し） ３．流入落差を利用した膜ろ過システムの採用 ４．前処理設備の導入（ＰＡＣ注入等） ５．動力回収水車の導入（ＲＯ膜ろ過の排水圧力を利用）
	薬品注入設備	１．薬品注入の効率化（自然流下注入方式、原水水質に応じた薬品注入制御の自動化） ２．高効率注入ポンプの採用 ３．水質計測設備の効率化（高効率サンプリングポンプ、インライン（測定点設置）化） ４．大・小容量注入機の組合せの採用
高度浄水工程	オゾン処理設備	１．オゾン発生設備の運転の効率化（オゾン注入量の制御） ２．高効率オゾン発生装置の採用 ３．排オゾン処理設備の熱回収 ４．空気源ブロワー吐出熱の回収
	粒状活性炭ろ過池設備	１．洗浄の効率化（洗浄の頻度、時間等の見直し） ２．洗浄速度・圧力の適正化
	紫外線処理設備	１．紫外線照射強度制御の効率化 ２．処理形態に応じた紫外線ランプの採用
排水処理工程	排泥濃縮槽設備	１．ポンプ運転制御方式の改善（台数制御、インバーター等による回転速度制御、可動羽根制御等） ２．高効率モータの採用 ３．運転時間、運転間隔の調整による運転の効率化
	排泥脱水設備	１．脱水の効率化（天日乾燥と脱水機の併用、効率的な駆動方式の選定、排熱利用による濃縮汚泥の加温、運転時間・運転間隔の調整） ２．脱水機に連動した搬送設備の制御 ３．天日乾燥処理施設の導入